

【電話会議質疑録】平成 27 年 12 月期 第一四半期決算について

<日時>5月8日 17:30-18:30

<登壇者>取締役経営管理部長 溝上、経営管理部IR室長

1. 国内酒類事業について

Q. 1Q の販売数量について、前年の消費増税前の駆け込み需要の反動減となった形だが、今後の回復見込みについて教えてほしい。

A. 4月からは前年比でプラスの推移となっており、今後は月を追うごとに回復し、3Qになれば前年同期((7-9月)の販売数量を超えていくものと考えている。

5月12日に麦とホップブランドの限定商品「麦とホップ The gold 薫るコク」、5月26日にノンアルコールビールテイスト飲料初の特定保健用食品「サッポロプラス」、6月16日に極ZEROブランドからジャンルを超えてチューハイで「極ZERO CHU-HI ゴクハイ」の上市を予定しており、収益に寄与する予定である。

Q. 1Q の販促費について、前年同期対比で支出を抑えているが、通年計画では販促費を増加させる計画となっている。今後の販促費の支出見込みについて教えてほしい。

A. 販売数量が伸びてくる2Q、3Qに販促費を投下することになるが、売上に見合った支出するのが原則である。

2. 国際事業について

Q. 北米では飲料水の原価高を要因として減益となっているが、対応策は？

A. シルバースプリングスシトラス社の商品はフロリダ産オレンジを特長としているが、昨年夏からのオレンジ価格上昇の影響を受けている。オレンジジュース以外の商品を提案することによる商品ミックスの改善や、価格政策を行うことで対応を進めていく。

3. 食品・飲料事業について

Q. レモン飲料が伸張しているが、新商品「キレートレモンエナジエ」の発売により、基軸の「キレートレモン」への影響は出ていないか？

A. 「キレートレモンエナジエ」はエナジードリンクの棚などに並べていただいております、カテゴリーが違うため、「キレートレモン」とのカニバリゼーションは生じていない。レモン飲料全体は前年同期比で3割以上の伸びとなった。

Q. 1Q はコスト増を要因として減益となっているが、対応策は？

A. 1Qでは自動販売機に関連する費用支出が生じたが、夏場に向けて販売数量が伸びていき

1 台あたりの効率性が高まることによって回収できるものと考えている。

4.その他

Q. 1Qに会計制度の変更によって純資産の減少が生じたが、今後は影響ないか？

A. 退職給付会計基準の変更に伴い退職給付債務及び勤務費用の計算方法を変更した。この影響額を経過的な取扱いに従って利益剰余金で調整したが、これは一過性のものである。

以上